

II 実証ほの成果紹介

1 ばれいしょにおけるスクープの活用可能性確認(2年目)

1 課題を取り上げた理由及び目的

さとうきびの夏場の管理作業に、植付前のばれいしょ農家の労力を活用できないか、関係機関と取り組んだ。スクープは小型トラクタで用いるさとうきびの中耕用アタッチメントで、ばれいしょ生産者の大半は小型トラクタを所有しているため、スクープがあれば夏場にさとうきびの管理作業も含めた作業受託ができる。ばれいしょ生産者にスクープ導入を推進するにあたり、ばれいしょでの活用可能性を検討する必要がある。

今回は、スクープを用い、小型トラクタによる30cm深耕の可能性を検討する。

2 実証の概要

- (1) 内容 スクープを用いた溝切り
 (深耕及びトラクタ走路用)
- (2) 設置場所 伊仙町検福
- (3) 耕種概要
 - ア 対象作物 ばれいしょ
 - イ 品種 ニシユタカ
 - ウ 作型 裸地早掘り大島型
 - エ 定植日 令和4年11月



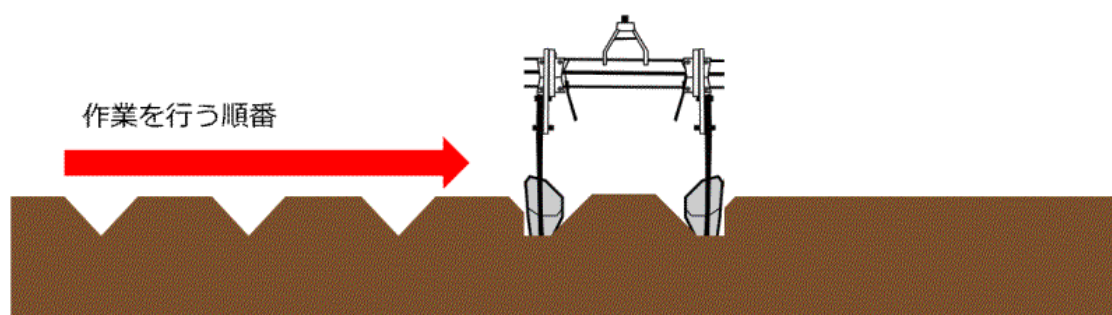
スクープ

3 調査結果

(1) 深耕作業用走路の溝切り

スクープを用いて、トラクタ走路に溝を切った。

手順① スクープで溝を切る
(ロータリ耕うんを深く入れる用)



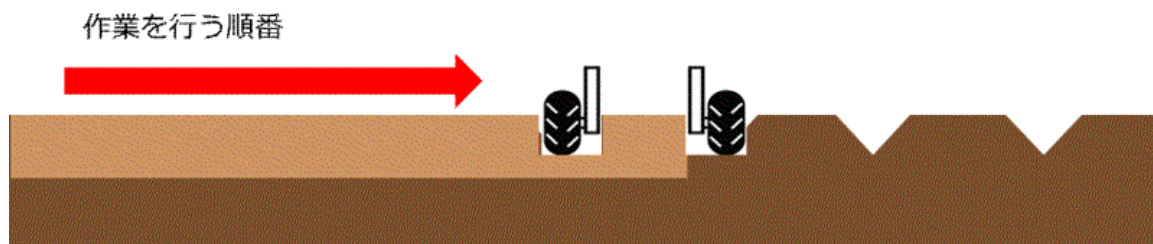
1つの走路を、スクープが2回通ることになる。

ほ場を往復して作業していく予定であったが、事前のロータリ耕うんのためか土壌が膨軟で、1度スクープが通った溝を帰りに逆方向から走ると、スクープが斜め下方向に深く刺さってしまい走行が困難であった。

手間となるが、帰りはスクープを上げてただ走って戻り、常に同一方向から作業することで走行は可能となった。

- (2) 30cm深耕
15cm深ロータリを装着し、(1)で作成した溝を走って耕うんする。

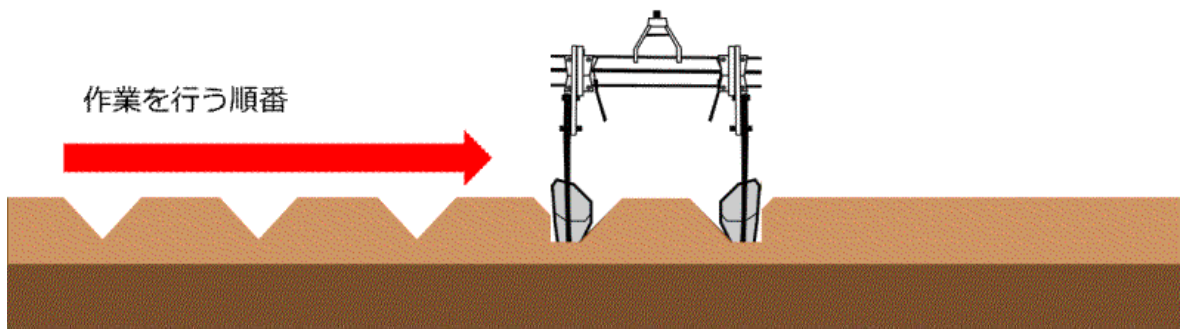
手順② ロータリ耕うん



スクープで走路に溝を切ること、15cm深ロータリでも約30cm深耕うんできた。

- (3) 定植用走路の溝切り
スクープで、定植時のトラクタ走路に溝を切る。

手順③ スクープで溝を切る
(定植のラインづくり用)



スクープで走路に溝を切っておくことで、定植時にスムーズに走行することができる。

4 考察

- (1) スクープを用いることで、小型トラクタのみで約30cm深耕が可能であった。
- (2) 前年度実証の結果、スクープにオプションの板（写真赤丸）を装着することで、畝高約25cmまで培土が可能で、作業時間は、慣行の管理機に比べ約半分の10a当り30分程度となった。
- (3) ばれいしょの深耕、培土に加え、スクープ所有者がさとうきびの中耕作業を行うことで、効率的導入・作業補完が期待できる。

5 残された課題

実証結果の波及

- 6 実施者 松ノ下 和輝

